

2. 目標と指標

■戦略の目標

【目標1】

■環境・ひとにやさしい交通

【目標2】

■安全で豊かな暮らしを支える交通

【目標3】

■まちの魅力を高め交流を促進する交通

【目標4】

■市民等との協働により支え合う交通を高め交流を促進する交通

主な指標	交通	交通手段別分担率	
		一定時間アクセス可能圏域人口(拠点等)	
		中心部歩行者	
		自転車交通量	
		公共交通カバーエリア	○
		バス利用者数	○
		鉄道, 路面電車利用者数	
	社会	DID内人口密度	
		中心部居住人口・公共交通サービス圏域人口	○
		商品販売額	
交通事故件数, 死傷者数			
環境	C02排出量		
その他の指標	交通の満足度	○	

※ 将来の交通利用環境を地区区分ごとに設定している。

評価指標	現況値	目標値
バス交通の課題を抱える地区	4箇所 (H22年度)	0箇所 (H27年度)
路線バスの利用者数	17,027,526人 (H22年度)	17,100,000人 (H25年度)
コミバス・乗合ジャンボタクシー利用者数	44,729人 (H22年度)	49,300人 (H25年度)
バスの利用満足度	H20年度市民意識アンケート	不満回答の解消

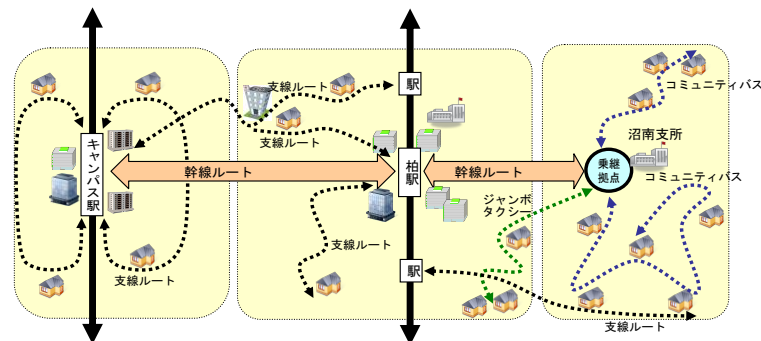
注) 今後、施策の推進組織により再度検討する。

3. 展開施策

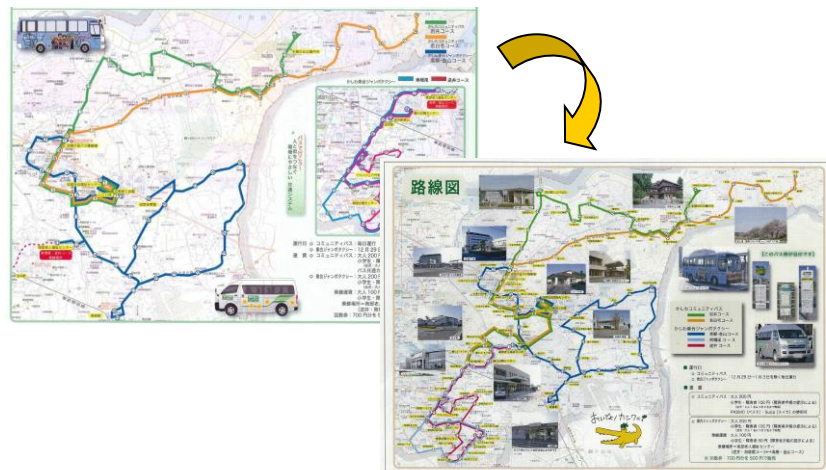
バス路線の充実

●道路や駅前広場の整備に合わせて、幹線的な路線バスルートを見直すとともに、市民ニーズに対応した利便性の高いバスサービスであるか評価し、路線再編成を検討していく。

■バスのネットワークの概念図



■路線の見なおし



かしわコミュニティバス・かしわ乗合ジャンボタクシーの利用促進

●既存システムについては、運行経路の見直し、乗り継ぎ運賃制度の拡充、利用促進のPR活動などにより、費用対効果の改善および移動の確保を図っていく。

バス運行情報の提供

●定時性の確保を補い、バス待ちのいろいろ等の解消のため、IT技術を活用しインターネット・主要バス停・ターミナル駅において、バスの到着時刻や混雑の状況を提示するなど、バス運行情報の提供による利便性の向上を図る。

■バス運行案内



3. 展開施策

駅前広場の整備

●異なる交通機関の乗り換え利便性の向上を図るため、北柏駅北口及び高柳駅西側土地区画整理事業による未整備駅前広場の早期整備を図るとともに、柏駅西口の再開発事業や末広あけぼの線の整備と併せて、柏駅西口駅前広場の交通機能の改善を検討する。

■都市計画道路・
末広あけぼの線
(未整備)



■北柏駅北口駅前
広場（暫定整備）

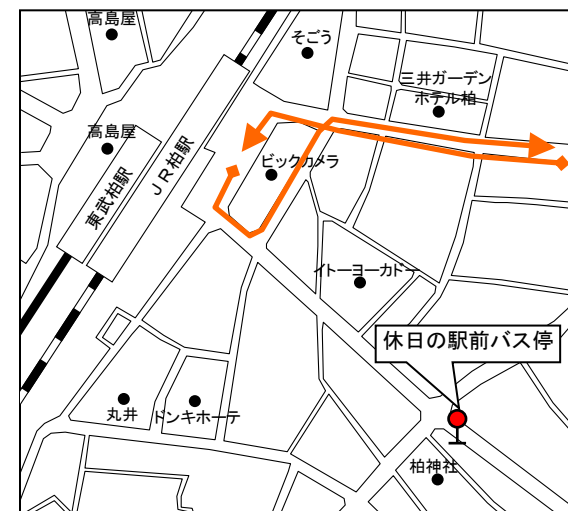


駅アクセスの向上

●柏駅東口駅前広場への休日バス乗り入れの実現を図っていく。

●高柳駅西側の駅前広場整備に併せて、東口改札へのアクセスを向上させる自由通路の整備を検討する。

■柏駅東口への休日バス
乗り入れ



3. 展開施策

タクシー乗り場の改善等

●タクシー乗場およびIT技術を活用したタクシーの待機環境の改善を検討していく。

●タクシー事業の適正化・活性化法に基く、地域計画への参画・推進を通して、タクシーの利便性向上を図ります。

■柏駅東口タクシー乗り場
(右側から乗車)



■休日タクシープール



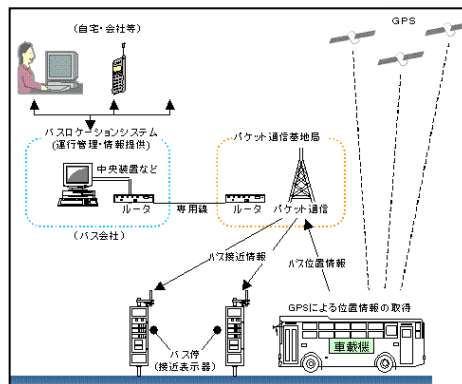
バス機能の強化

●都市拠点や地域拠点を連携し、交通機能を強化する公共交通軸には、バスロケーションシステム、乗り継ぎ情報案内、ハイグレードバス停、車両の差別化(新しい車両・拠点間シャトルバス)等の導入検討に加え、幹線バスと支線バスによる交通ネットワークにITS(高度道路情報システム)を活用した「新たな公共交通システム」により、総合的かつ高度なバスシステムの導入を研究していく。

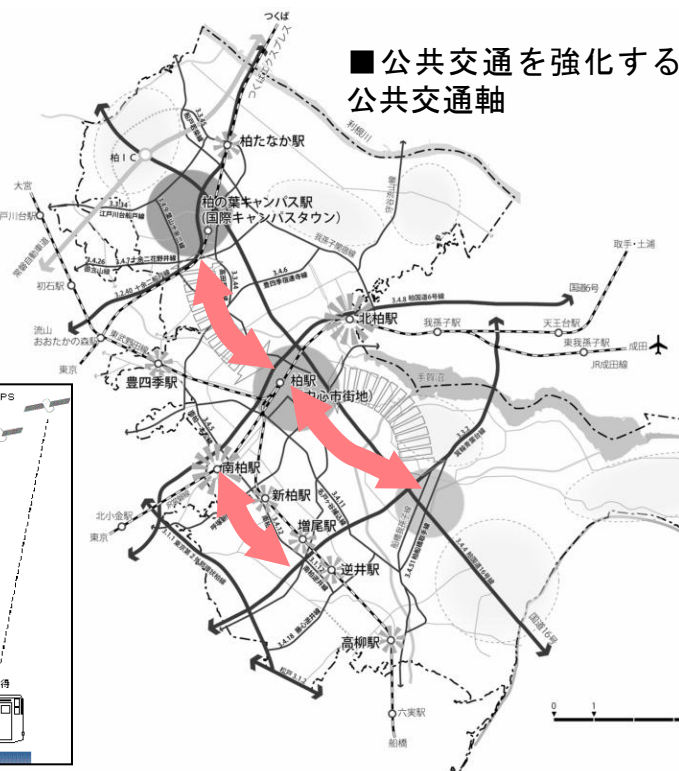
■非接触給電ハイブリッドバス



■バスロケーションシステム



■公共交通を強化する公共交通軸



3. 展開施策

都市計画道路整備プログラムの策定

●都市計画道路整備プログラムを策定し、効果的かつ効率的に整備していく。

■整備プログラムの策定イメージ

都市計画道路整備プログラムの対象路線

事業性による評価

整備効果による評価

導入可能な道路整備費

路線別の整備着手スケジュール

第3期（今後20年以降に着手）

第2期（今後20年以内に着手）

第1期（今後10年以内に着手）

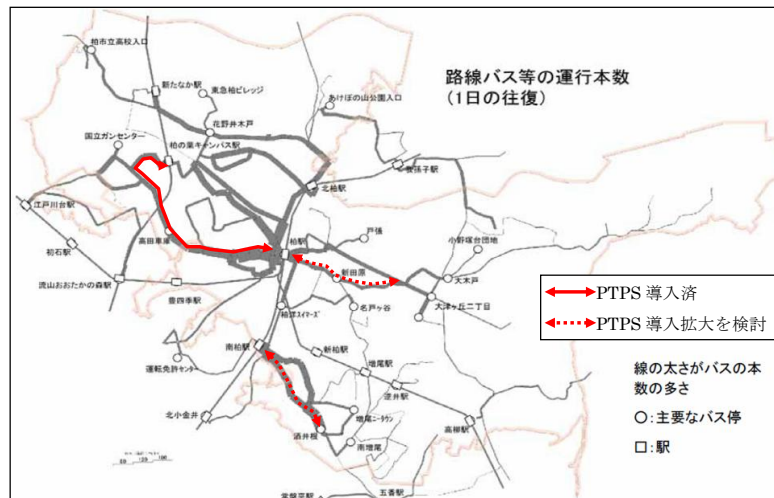
渋滞交差点の解消対策

●交通渋滞が激しく、事故が頻発する交差点については、交通需要をマネジメントする施策の実施とともに、交差点改良等によるボトルネック箇所の解消を計画的に行い、車両の円滑な通行を図る。

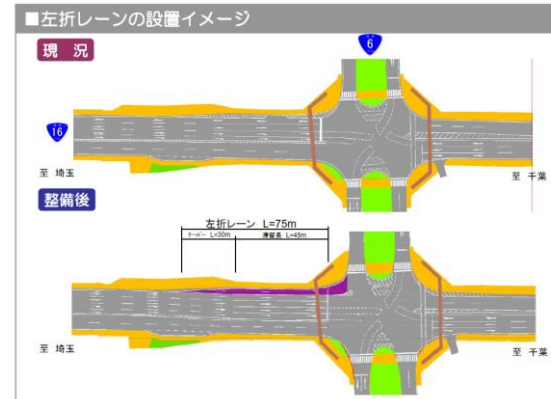
PTPSの拡充

●南柏駅から酒井根、柏駅から沼南支所方面などに連絡するバス路線について、導入拡大を検討していく。

■PTPS導入イメージ



■呼塚交差点の交差点改良

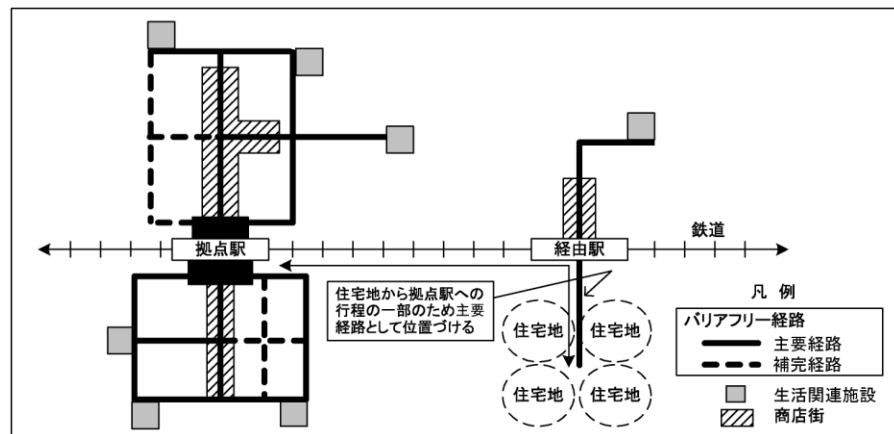


3. 展開施策

歩行者環境の向上

- バリアフリー基本構想に基づき、歩道の段差解消を進めていく。
- 歩行等の妨げとなる電柱、植樹帯、看板等の点検を実施しながら、関係機関との連携により改善を図っていく。

■ バリアフリー経路の考え方



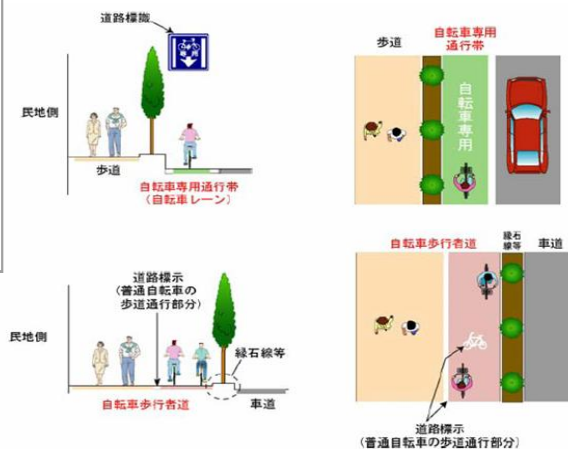
■ 重点整備地区の設定 (赤字：追加地区)

- | | | |
|------------|-----------|-----------------|
| ① 柏駅周辺地区 | ⑤ 新柏駅周辺地区 | ⑨ 柏の葉キャンパス駅周辺地区 |
| ② 南柏駅周辺地区 | ⑥ 増尾駅周辺地区 | ⑩ 柏たなか駅周辺地区 |
| ③ 北柏駅周辺地区 | ⑦ 逆井駅周辺地区 | ⑪ 沼南庁舎周辺地区 |
| ④ 豊四季駅周辺地区 | ⑧ 高柳駅周辺地区 | |

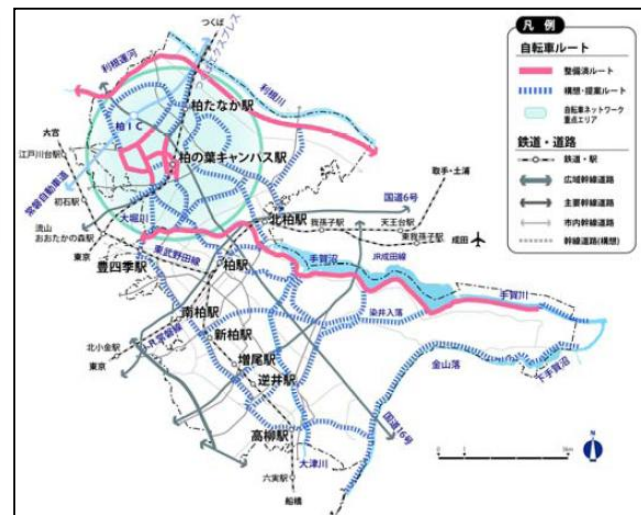
自転車走行環境の向上

- 歩行者、自転車、自動車の交通量等の実態、道路の構造を踏まえて、走行環境の分離を推進していく。
- 自転車等の駐車対策に関する総合計画を策定し、関係機関がそれぞれの役割を分担し、相互に連携・協力しながら、必要な措置を講じていく。

■ 自転車走行空間イメージ



■ 自転車ネットワーク



3. 展開施策

駐車場整備計画の見直し

●柏駅周辺に過度に自動車を入れず、賑わいと交流を創造する街づくりが重要であることから、駐車場施策の見直しを自動二輪駐車対策も含めて検討していく。

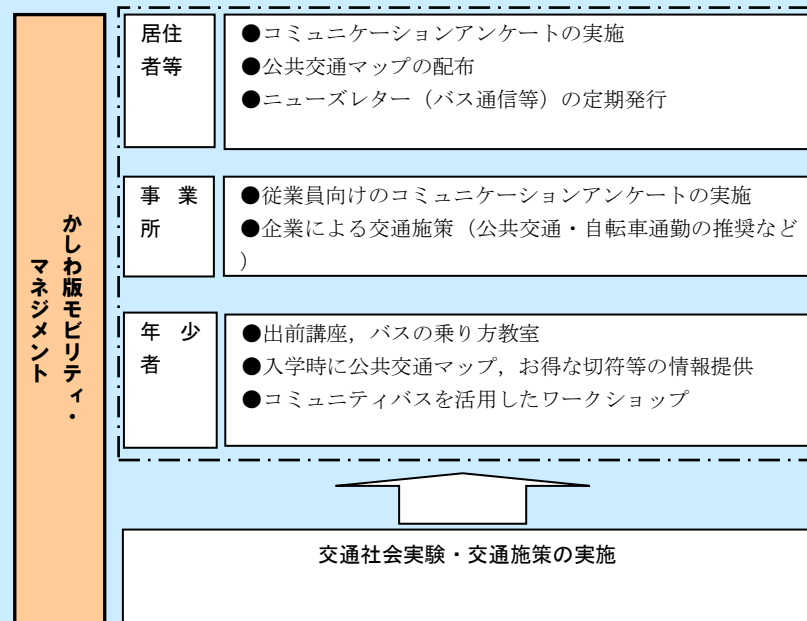
■駐車場整備計画の主な内容

- (1) 路上駐車場及び路外駐車場の整備に関する基本方針
- (2) 路上駐車場及び路外駐車場の整備の目標年次及び目標量
- (3) 上記の目標量を達成するために必要な路上駐車場及び路外駐車場の整備に関する施策
- (4) 地方公共団体の設置する路上駐車場で駐車場整備地区内にある路上駐車場によっては満たされない自動車の駐車需要に応ずるため必要なものの配置及び規模並びに設置主体
- (5) 主要な路外駐車場の整備に関する事業の計画の概要
- (6) 地域特性に応じた駐車施設の整備
- (7) 駐車場付置義務の見直し

モビリティマネジメントの実施

●モビリティマネジメントを通じて、「公共交通や徒歩などを含めた多様な交通手段を適度に（＝かしこく）利用する状態」を目指す。

■モビリティマネジメントの展開イメージ



4. 総合交通戦略の推進及び評価

市民等との協働

●市民，利用者，交通事業者，行政が協働してまちづくりの将来像や地域の交通課題を共有しながら連携し，各々の役割を担っていくことが重要である。

推進組織の設置

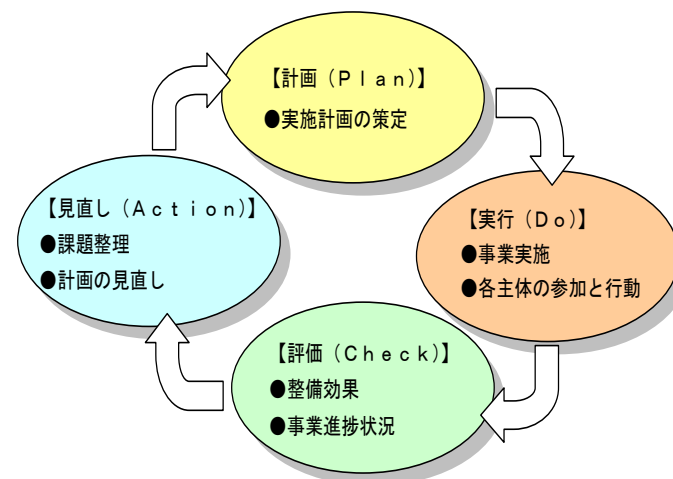
●市民，利用者，交通事業者，行政等を中心とした戦略の推進組織を設置し，様々な意見を反映しながら，戦略に位置づけた事業の実施，調整を行っていく。

（仮称）柏市総合交通協議会の構成

学識経験者，地域公共交通利用者（市民），公共交通事業者，経済団体，関係行政機関（国・県・警察など），柏市

PDCAサイクルに基づく進行管理

●戦略における施策の実行にあっては，定期的に施策の進捗状況，導入効果等を確認し，必要に応じて施策の見直しを行うなどPDCAサイクルに基づく進行管理を行う。



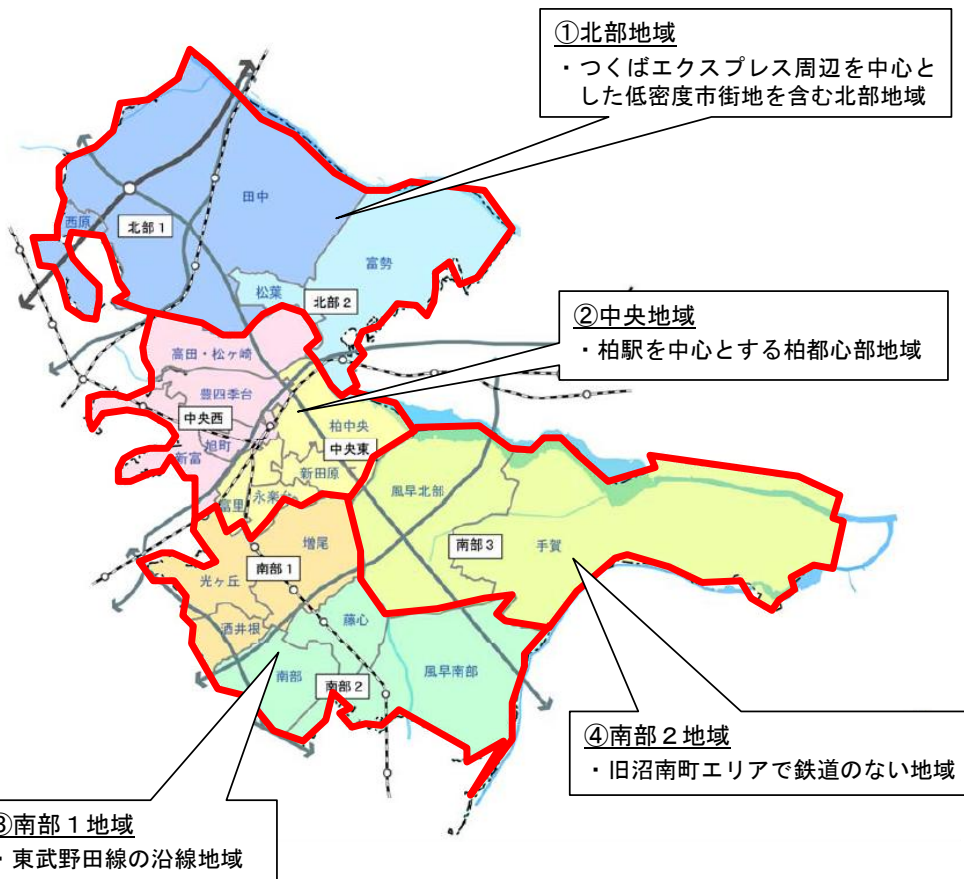
5. その他(戦略報告書の構成・特徴等)

■交通ネットワークイメージ



■地域区分の設定

●地区区分は、柏市都市計画マスタープランにおける地区区分を踏まえ、交通体系の特性の違いから下図のように設定する。



柏市都市・地域総合交通戦略

5. その他(戦略報告書の構成・特徴等)

北部地域の交通施策

【地域の将来像】

水辺と田園風景を守りながら新たな文化を想像する柏の葉国際キャンパスタウン

地域に残る歴史的資源とあけぼの山の緑から広がるまち

【交通施策の基本方向】

柏の葉キャンパス駅を中心とした次世代型環境都市づくりに向けた新しい交通施策の展開

中央地域の交通施策

【地域の将来像】

柏市の顔となる地域の個性を尊重し、美しい景観と賑わいを演出するライブタウン

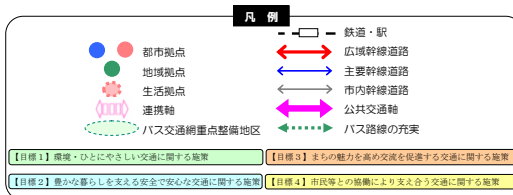
市民連携により大堀川や野馬土手を活用した、やすらぎのあるまち

【交通施策の基本方向】

柏駅を中心とし、活力と魅力あるまちづくりと連携した協働による交通施策の展開



主な施策パッケージ



【将来の交通利用環境】

- 豊かな自然環境の中で、環境と共生した生活ができ、環境意識も高まり、自動車利用を控えた生活が促進される。
- 移動目的に応じた適正な交通手段の選択が容易となり、自転車や公共交通を中心とした持続可能な交通システムが手軽に利用できる。
- 公共交通軸の強化により柏駅周辺との連携・交流が高まる。

【将来の交通利用環境】

- 中心市街地の選択性の高い交通環境の整備や、環境意識の高まりにより、自動車利用を控えた生活が促進される。
- 中心市街地活性化事業の展開とともに、歩きやすく街なかの回遊を楽しめる歩行者空間が整備され、柏らしい出会いと賑わいが創出される。
- 公共交通軸の強化により柏の葉キャンパス駅周辺との連携・交流が高まる。

5. その他(戦略報告書の構成・特徴等)

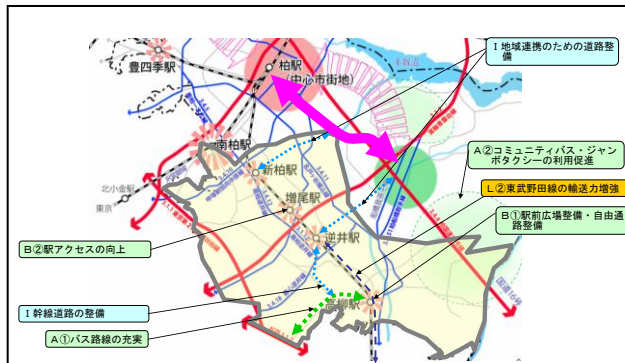
南部地域1の交通施策

【地域の将来像】

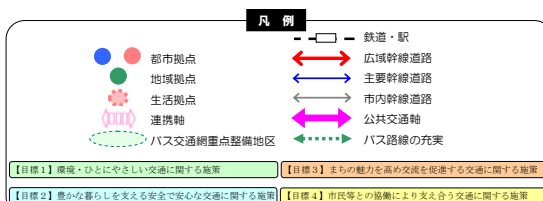
様々な都市機能が調和した市街地環境の形成と緑ある生活が営めるまち
交通環境を整え自然と住宅が共生したまち並みづくりを目指す

【交通施策の基本方向】

各生活拠点を中心とした良好な市街地形成のための道路整備や公共交通の利用促進等身近な交通施策の展開



主な施策パッケージ



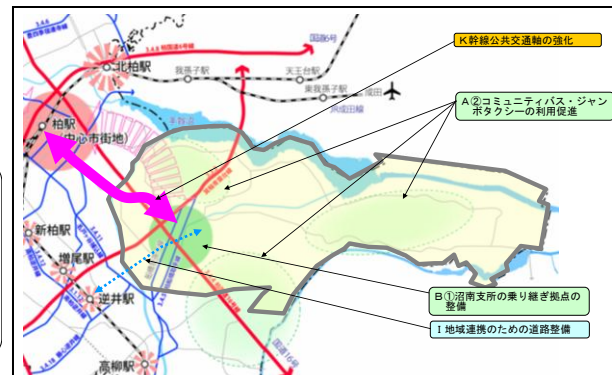
南部地域2の交通施策

【地域の将来像】

良好な住環境を整備し、水と緑に囲まれた自然環境を体感できる交流のまち

【交通施策の基本方向】

地域拠点と中心市街地を有機的に連絡する公共交通軸の強化と、良好な住環境や活力ある地域拠点形成に資する交通施策の展開



【将来の交通利用環境】

- 最寄の駅を中心として生活拠点が形成され、歩いて暮せる環境が整うとともに、バスや自転車などを利用する際にも便利になる。
- 交通不便地域へのコミュニティバスや乗合タクシーの導入により地域拠点へのアクセスが容易になる。
- 日ごろから豊かな自然に触れ合え、散策やサイクリング等が楽しめる。

【将来の交通利用環境】

- 柏駅へのバス利用が便利になり、環境意識の高まりとともに、自動車利用を控えた生活が促進される。
- 交通不便地域へのコミュニティバスや乗合タクシーの導入により地域拠点へのアクセスが容易になる。
- 選択性のある交通手段が利用され、多くの自然環境を活かしたレクリエーションや観光による交流が高まり、地域が活性化される。